

和 算 漫 録 (四)

村 林 專 之 助

1. 昭和十二年の新年を迎へまして芽出度御祝ひする次第であります。前年は各所に大々的珠算競技會が開かれまして、實に珠算界は賑やかでありました。本年も同様否一層盛んに催されることゝ思ひます。洵に結構なることであります。

2. 競技會が盛んに行はれるのは、我が珠算の爲めに喜ばしいことではありますが、併し、斯ういふ景況になると、勢ひ各學校で競争的に參會撰手を養成するやうになり、知らず識らず珠算教育といふことを等閑に附する弊に陥ることが心配されます。是れは大いに警戒すべき點であると思ひます。

3. この珠算教育に就いて、聊か自分の思つてゐるところの一端をこゝで述べることにします。まづ、一教員が大いに抱負を以て、珠算教育に當らんとしても、從來の例に依りますと、其の學校の校長が、實業學校の校長でありながら、珠算そのものに理解を持つてゐなかつたり、又は同僚の教員の一部が珠算の科目を輕視したり、従つて俸給も他の科目の擔任者に比し尠なかつたりします。こんな有様では、珠算擔任の教師も、其の抱負を充分實行することが出来ません。又珠算科目の位置とか取扱とかいふやうなるものが、中等學校では皆必修科目となつてゐますが、専門學校以上になりますと、必修科目のところもあり又撰擇科目や隨意科目になつてゐます。撰擇科目は兎に角、隨意科目では困る次第です。これでは成績の擧るわけはありません。參考までに申しますと、東京商科大學では豫科専門部共、必修科目にな

つてゐます。東京高等商業時代には、算術といふ科目で無論必修科目でありました。そこで、珠算教育根本の問題としましては、先づ珠算専任教員の待遇であらうと思ひます。勿論其の教師には、珠算ばかり能く出来るだけではいけません。一般の學力及び其の人格が必要條件であります。現在のやうに他の科目(たとへば、英語、數學等)の教員より報酬が少なかつたり、待遇の位置が下級のものと定めてあつたりするやうでは到底駄目な話です。斯くの如き有様では、單に珠算教育ばかりでなく、全體の教育として効果の擧る筈はないと思ひます。序ながら書法、體操等の先生も、矢張り珠算の先生の待遇と同じやうな現況ですが、同じく科目に甲乙なく待遇を良くせねばならぬと考へます。併し、體育獎勵の今日、體操科の先生丈けは、其の内待遇が上ることになるでせう。

4. 梅に鶯 梅に鶯をよめること、和歌には常のことなり。鶯宿梅の故事、拾遺和歌集にも見えたるより、猶さら、なべて世人も鶯といへば、梅はかならずあるべきものとしもおもへり。いとふるくも萬葉集にも、鶯には多く梅をよみ合せたり。詩にも葛野王の春日鶯を翫ぶの五言に、素梅開_レ 素鶯_レ 嬌鶯弄_レ 嬌聲_レ といふ句あり。唐土にはいはぬことゝのみおもへるに、王維の早春行の詩に、紫梅發初遍黃鳥歌猶澁といへるぞ、鶯梅を對する據ともすべし、また竹林に虎の住めること、佛說金光明最勝王經に見えたり。(世事百談卷之四、著者は天保年間の人、山崎美成、家は藥舗なれども後幕府に仕官す。なほ、本書の外に多くの著書あり。)

また年を重ねて高し春の富士